

第6回アジア原子力協力フォーラム (FNCA)
コーディネーター会合の開催について

平成17年3月8日
原子力委員会

FNCAは、原子力委員会の主導により2000年に開始されたアジア地域の原子力協力の枠組みであり、アジア地域9カ国の参加の下、8分野11プロジェクトの研究協力が進められています。本枠組においては、年1回の大規模な会合に加えて、個別プロジェクトの新設、改廃、調整、評価等に関する討議を目的としたコーディネーター会合が毎年開催されています。

今回の第6回コーディネーター会合においては、個別プロジェクト各分野における活動の報告、評価及び今後の計画について議論するとともに、昨年新たに設置された「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」パネル会合の結果報告と今後の計画についての意見交換を行い、さらに昨年の大規模な会合で議論された「人材育成分野」等についてフォローアップを行います。(別添1、別添2参照)

1. 開催時期

平成17年3月30日(水)～4月1日(金)

2. 開催場所

東京(キャピトル東急ホテル)

3. 参加国

オーストラリア、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム、日本

第6回コーディネーター会合プログラム(案)

平成17年3月30日(水)

9:00-9:20 開会セッション

9:20-9:50 セッション1「第5回大臣級会合の報告」

10:05-11:50 セッション2「FNCAの運営(新規プロジェクト等)」

13:00-15:30 セッション3「人材養成」

15:45-17:15 セッション4「FNCAの将来」

平成17年3月31日(木)

8:30-17:30 セッション5「個別プロジェクト活動報告、評価、将来計画」

※個別プロジェクト：研究炉、農業、医学、広報、人材養成、工業、放射性廃棄物、安全文化

平成17年4月1日(金)

10:00-11:30 セッション6「議事録とりまとめに関する討議」

11:40-12:00 閉会セッション

第5回アジア原子力協力フォーラム (FNCA) 大臣級会合サマリー (仮訳)

1. 第5回アジア原子力協力フォーラム (FNCA) 会合は2004年11月30日、12月1日の両日、ベトナム・ハノイにおいて「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」を基調テーマにオーストラリア、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムのアジアの9カ国から平和のための原子力研究開発利用を所管する大臣と上級行政官の参加により開催された。
第5回 FNCA 大臣級会合 (MM) はベトナムの科学技術省 (MOST) H. V. フォン大臣の歓迎挨拶に始まり、これに日本の棚橋泰文科学技術政策担当大臣の基調演説が続いた。セッションの議長は、日本の近藤駿介原子力委員長が務めた。
2. セッション1では、ベトナム原子力委員会 (VAEC) V. H. タン委員長が、前日に開催された上級行政官 (SOM) のサマリーを報告した。FNCA 日本コーディネーターで日本の原子力委員会の町末男委員は FNCA の活動について最近の実績や将来の方向性をはじめとする進展や展望を報告した。各国代表は、活動の目覚ましい成果を認識し、将来計画を承認した。SOM サマリーレポートは MM においてしかるべく採択された。
3. セッション2においては、「各国の原子力研究開発政策と FNCA 活動」に関するカントリーレポートが各国代表によって発表された。同セッションは、日本の原子力委員会 (AEC) の近藤駿介委員長が議長を務めた。
同リポートは、各国における最近の原子力研究開発政策の動向とともに、研究開発の進展や平和目的の原子力利用計画のさまざまな成果を網羅した。参加各国は、過去数年にわたる FNCA 活動を展望し、目に見える活動の進展を評価し、FNCA の枠組みの下での将来協力を確信した。全代表は、より快適な環境におけるよりよい生活の恩恵をめざすというメンバー国が設けた FNCA の目標にむかって、FNCA 国間で協力する重要性を認識した。
4. 「円卓討議」においては、FNCA 参加国の代表は「原子力科学技術のための人材育成に関する協力」と「FNCA の今後のあり方」の2つのトピックスについて見解や意見を表明した。
 - (1) 最初のトピックに関する討論においては、日本の近藤駿介 AEC 委員長がモデレーターを務め、V. H. タン VAEC 委員長が論点紹介を行った。討論や結論の概要は以下のとおり。
 - a. 人材育成は原子力開発の着実な推進のために重要であり、時間のかかることながらもあるので、必要な時期に合わせ十分周到な準備がなされるべきであ

るとの共通の認識に達した。

- b. ベトナムから提案のあったアジア原子力大学構想については、IAEAのアジア原子力技術教育ネットワーク（ANENT）にも配慮しつつ、上級行政官レベルの会合によって注意深く検討されるべきであることが合意された。同会合は、2005年のHRDプロジェクトのワークショップを活用することが考えられる。また、HRDは研修生の人数と質に関しては需要によって規定されるべきであると注記された。
- c. 日本が実施している原子力研究交流制度は、各国の人材育成に大きく貢献しているとFNCA参加国から高く評価され、上記（b）の点と関連し、レビュー・検討することが合意された。
- d. また、原子力に対する理解（パブリックアクセプタンス）の向上の観点から、パブリックインフォメーションと教育の重要性について、共通の認識に達した。

(2) 後半の「FNCAの今後のあり方」においては、マレーシアの科学技術革新省（MOSTI）コン・チョー・ハー副大臣がモデレーターを務め、FNCA日本コーディネーターで原子力委員会の町末男委員がリードオフ・スピーチを行った。主な議論と結論は以下のとおりである。

- a. リードオフ・スピーカーは、今後、新規プロジェクトを開始する際には、既存のFNCA活動についての評価結果を踏まえたものとするのが、必要であることを強調した。また、新規プロジェクトは、FNCAにとって共通の関心とニーズを満たすよう作られるべきである。この観点から、FNCA参加国はFNCAの活動の実施に全面的に参加するべきである。本会合は、これらの点を支持した。
 - b. また、FNCAが平等のパートナー主義に基づくことから、参加各国からのFNCAプロジェクトの積極的な提案及び積極的なホストの引き受けが期待されている点が指摘された。本会合はこの点を支持した。
 - c. 各国はリードオフ・スピーチに盛り込まれたことをほぼ一致して支持した。また、非発電から生じる放射性廃棄物のための安全かつ確実な放射性廃棄物の貯蔵に関してパネルを設置し、議論を行うことがフィリピンから提案された。
5. 総括セッションにおいては、フィリピンの科学技術省（DOST）のE. アラバストロ長官が議長を務め、VAECのV. H. タン委員長が2006年にマレーシアを予定している第7回FNCA会合の開催を含む、本会合サマリーを紹介した。フィリピン代表は第9回会合を2008年に同国で開催することを提案した。日本の原子力委員会の近藤駿介委員長の挨拶に続き、ベトナムのH. V. フォンMOST大臣が閉会の挨拶を行い、本会合は閉会した。

以上

第5回アジア原子力協力フォーラム (FNCA)
コーディネーター会合 (CM) 議事録 (仮訳)
2004年3月3日～5日 於東京京王プラザ

2004年3月5日

1. 第5回コーディネーター会合 (CM) が2004年3月3日から5日にかけて、日本の東京で、内閣府と文部科学省の共催で開催された。
原子力委員会町末男委員 (FNCA 日本コーディネーター) が歓迎挨拶を述べた。この会合には FNCA 諸国であるオーストラリア、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの代表とオブザーバーとして IAEA の代表者一人が参加した。
2. セッション1では、町末男 FNCA 日本コーディネーターが2003年度の活動と沖縄での第4回 FNCA 大臣級会合の概要を報告した。同氏は、実施中の活動の重要な実績を具体的に説明した。第5回コーディネーター会合はこの報告を了承した。
3. セッション2で、FNCA コーディネーターと代表者は FNCA のプロジェクトの進展と将来計画についてカントリー・レポートの発表を行った。
4. セッション3では、「アジアの持続可能な発展のための原子力エネルギーの役割」を検討するパネルと「医療での PET (陽電子放出断層撮影法)、サイクロトロンならびにラジオアイソトープの利用」の2つの新規提案が発表された。
 - A. 町 FNCA 日本コーディネーターはアジア地域のエネルギー事情に関する統計的な数値を用いて、これまでの経緯とこの調査の重要性を説明し、「アジアの持続可能な発展のための原子力エネルギーの役割」を検討するパネルの概要と活動計画を紹介した。それによると、パネルではエネルギー源別生産コストと温室効果ガス (GHG) 排出の削減効果を比較することで、20年間から50年間の長期エネルギー計画を研究する。原子力発電の導入の可能性や非発電利用の有用性も検証される。パネルの第1回会合を2004年の8月から11月の間に日本で開催することが提案された。
第5回コーディネーター会合は、パネルでは国際原子力機関 (IAEA) / アジア地域原子力協力協定 (RCA) の関連データ、ソフトウェア、専門知識の活用を考慮することを提言した。また、FNCA と RCA が相乗効果や補完関

係を強化すべきことを改めて確認した。

第 5 回コーディネーター会合は、エネルギー安全保障や地球温暖化に関連した原子力エネルギーの役割、原子力発電計画を実施するメカニズム、原子力発電に対するよりよい理解と受容を得るための広報活動といった課題を、パネルで討議することに合意した。

第 5 回コーディネーター会合はパネルの活動目的を支持することを強調した。戦略的なエネルギー計画は、近い将来の原子力発電計画をもたない国も含め、すべての国にとって重要である。町 FNCA 日本コーディネーターはまたパネルの参加者として、原子力部門だけでなく、環境やエネルギーの専門家も必要であると強調した。

B. マレーシアの Mohamed Ali Abdul Khader 氏は、新規プロジェクトである「医療での PET（陽電子放出断層撮影法）、サイクロトロンならびにラジオアイソトープの利用」について報告した。すべての参加国が PET とサイクロトロンの技術に関する相互の有益な経験や情報を共有できることが期待される。

マレーシアは、プロジェクト実施のためにより詳細な活動計画を作るよう要請された。第 5 回コーディネーター会合はこの提案を承認し、このプロジェクトは 2005 年度に開始予定となった。

第 5 回コーディネーター会合は、オーストラリアや中国、日本、韓国、フィリピンといった PET とサイクロトロンをすでにもっている国がその経験を、同様の施設を近い将来導入する予定である国々と共有できることの意義を認識し、また PET とサイクロトロンのメンテナンスの重要性を強調した。

5. セッション 4 では、町 FNCA 日本コーディネーターが、FNCA 活動の効率的な実施について発表した。同氏は、FNCA プロジェクトを実施するための日本の FNCA 運営体制を説明した。同氏はまた、Tc-99m ジェネレーター用の Mo-99 吸収 PZC カラムの利用、環境モニタリングのための中性子放射化分析測定の利用、およびバイオ肥料の利用の栽培農家への拡大といった、社会・経済的効果を高めるために取り組む必要のある特定の課題について言及した。

「アジアの持続可能な発展のための原子力エネルギーの役割」のパネル実施については、FNCA コーディネーターが環境政策とエネルギー計画の行政官と調整して緊密に協力することを要請した。

第 5 回コーディネーター会合では、FNCA プロジェクトの評価、とくに評

価指標と評価手順についても議論した。

A. オーストラリアの Dr. Easey は、活動から直接に発生することからアウトプットを評価すべきであると指摘した。アウトカムはアウトプットから派生するが、それらをコントロールすることはむずかしい。町 FNCA 日本コーディネーターは、評価は当事者が客観的に行なうことを提案した。中国の Dr. Huang は、同じ分野の他の専門家も含むべきと助言した。

B. RCA コーディネーターの Dr. Dias は、IAEA/RCA は論理的な「枠組マトリックス」とプロジェクトの設計段階でのエンドユーザの参画を得ていることを紹介した。

C. マレーシアのコーディネーター Mr. Adnan は、すべての FNCA/IAEA プロジェクトは関連のある国家プロジェクトの重要な一部分であるべきと付け加えた。

D. Dr. Easey は、原子力技術の費用対効果とその有効性に関する適切な情報が、原子力技術利用の普及に非常に重要であると述べた。同氏は、費用対効果についての情報を長年見つけることができないでいる状況を紹介し、FNCA のプロジェクトはこの点を考慮すべきであると指摘した。

Dr. Dias が IAEA/RCA 活動の概略を発表した。第 5 回コーディネーター会合は、IAEA/RCA と FNCA の活動間の相乗効果と密接な結びつきの重要性を認識した。

6. セッション 5 では、第 5 回コーディネーター会合は 8 分野の FNCA 活動を議論ならびにレビューし、実施中のプロジェクトの活動と将来計画を承認した。また第 5 回コーディネーター会合は、FNCA 枠組下のワークショップおよび会合の仮スケジュールと開催地に合意した。

それぞれのプロジェクトに関する主な討議内容と合意事項、3 カ年活動計画も承認された。

7. セッション 6 では、ベトナムの代表から、2004 年 11 月 23 日から 24 日にベトナムのハノイでの第 5 回 FNCA 大臣級会合開催がアナウンスされた。同会合は「アジアでの原子力人材養成に関する協力」を基調テーマに開催され

る予定である。FNCA 各国の人材交流と共同活動を可能にし、地域での人材養成への FNCA 各国の貢献を促進することを目的としたネットワークを構築することが提案された。

8. 閉会セッションでは、各国の代表によりコーディネーター会合の議事録が採択された。文部科学省研究開発局原子力課の信濃正範国際原子力協力企画官が閉会の挨拶を行い、第 5 回 FNCA コーディネーター会合を閉会した。

9. 施設訪問

2004 年 3 月 5 日に、放射線医学総合研究所への施設訪問が行われ、PET、サイクロトロン、重粒子線がん治療装置といった施設が各国代表に紹介された。